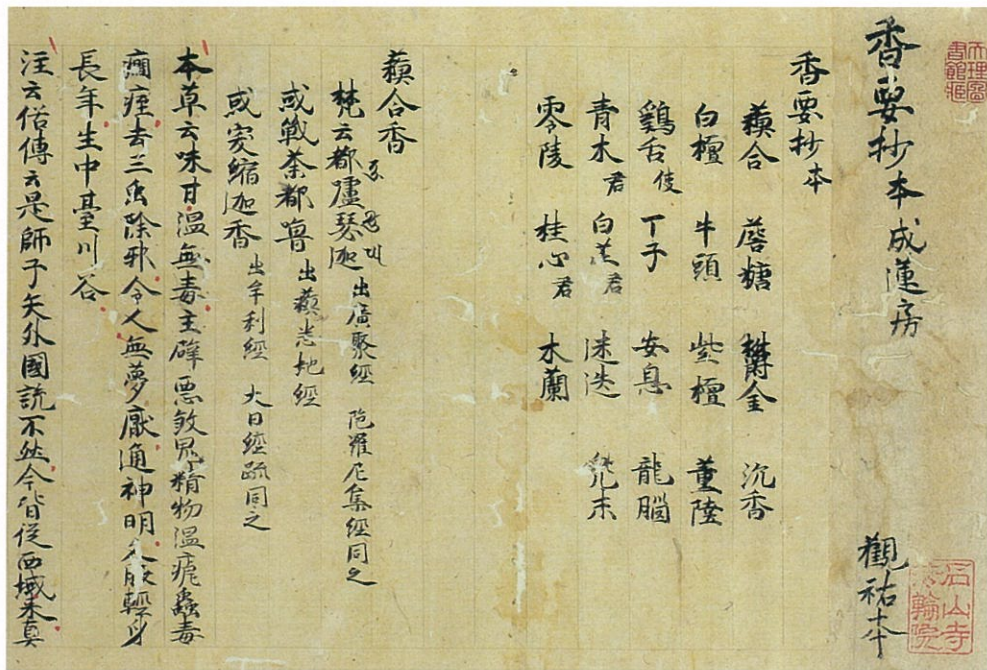


やまとの名品 天理図書館



こう よう しょう
香 要 抄 (重要文化財)

亮阿闍梨兼意撰

平安時代末期写 2卷2軸

縦27.5cm 横(本卷)19m24cm (末卷)17m58cm

『香要抄』は平安時代後期に成立した、「香葉」について書かれた本草書(葉草の本)の一種。密教の修法である加持祈祷に使われる香葉四十九種について、形状・精製法・効能・産地等を、多くの書物から引用し図を添え解説したもの。

本書に引用されている古い書物の中には、既に現存しないものもあり、その内容の一部を知ることができるのは貴重である。また香葉の名前は、梵語・漢語・和語などで書かれているが、中でも漢字を用いてヨミを表す万葉仮名で書かれた和名は、当時の実際を知るうえで興味深い。撰者の亮阿闍梨兼意(一〇七

二)没年不詳)は、皇后宮亮藤原定兼の三男で真言密教を代表する僧。高野山に登り成蓮房に住居した。密教修法に詳しく、梵字に堪能で仏画も巧みであったという。

掲出の書は、紫式部が『源氏物語』を構想した寺と言い伝えられる石山寺の旧蔵書で重要文化財。数人による寄合書で、平安時代末期に書写されたもの。本・末の二巻二軸からなり、本巻には「蘇合」以下十九種、末巻には「麝香」以下三十種を収録する。

楮紙を継いだ本文用紙には、薄墨で幅2cmの罫線が引かれており、挿図には黄檗染楮紙を用

いて、本巻に「沈香」等十図、末巻に「甘松」等十二図が描かれている。



右は「麝香」の原料となる麝香鹿の図。「麝香」は「ムスク」の事で、香水や柔軟剤などではお馴染みの香り。今ではほぼ人工香料が使われているが、身近に漂うふわっと甘い香りの元が麝香鹿であったことに驚く人もい

るのではないだろうか。
(天理図書館 岡本千佳)

天理図書館のお知らせ Tel: 0743-63-9200 <https://www.tcl.gr.jp/>

◆平日(午前9時~午後5時半) 土・日・祝(午前9時~午後4時半)

○9月の休館日:21日・30日

現在、新型コロナウイルス対策のため、サービス内容や開館時間が通常と異なる場合があります。詳しくはHPでご確認ください。